

2002年5月15日
川崎製鉄株式会社
株式会社神戸製鋼所

溶接材料に関する提携検討開始について

川崎製鉄株式会社（以下 川崎製鉄）及び株式会社神戸製鋼所（以下 神戸製鋼）はこのほど、溶接事業の維持・強化のため、溶接材料の研究開発、生産、調達に関する提携関係構築の検討を行うことで合意致しました。今後は両社メンバーからなる『検討委員会』を設置して具体策の検討を進め、1年以内に提携契約調印を行う予定です。

現時点での具体的検討内容は以下の通りです。

< 具体的検討内容 >

- 鋼管・厚板の溶接材料に関する共同開発
- 生産の相互委託
- 各種原料・資材の共同調達

神戸製鋼は、鋼管・厚板の溶接材料について1960年代より、溶接材料部門を持たない日本鋼管株式会社（以下 NKK）と共同研究開発を積極的に進め、密接な協力関係・信頼関係を構築してきました。その結果、現在ではNKKで使用される溶接材料を神戸製鋼が主に供給しています。一方、川崎製鉄はNKKと、2002年9月27日に持株会社JFEホールディングス株式会社を設立して両社はその傘下に入り、2003年4月を目処に両社を事業別の会社に再編成し事業統合する予定です。

このような状況の中、NKK向け溶接材料の今後の技術協力について、神戸製鋼が同社に対して全面的な技術協力を行ってきたことから、NKK、川崎製鉄、神戸製鋼の3社で協議を進めてきました。その結果、溶接材料・技術が製品品質に大きく影響することから、川崎製鉄と神戸製鋼が共同で溶接材料の研究開発を行っていくことが最善であるとの結論に達しました。さらに両社は、鋼管・厚板の溶接材料に留まらず、各々の溶接事業を維持・強化できる広範囲な協力関係を構築することで考えが一致し、研究開発、生産、調達全般に係わる提携の検討を開始することになったものです。

<ご参考>

【川崎製鉄の溶接事業概要】

売上高：約 36 億円（2001 年度）

生産品目：被覆アーク溶接棒、マグ・ミグ溶接用ソリッドワイヤ、フラックス入りワイヤ、サブマージアーク溶接用ソリッドワイヤ・フラックス 他

生産工場：千葉製鉄所（千葉県） 水島製鉄所（岡山県）

事業体制：研究開発、生産は川崎製鉄が行い、販売は川鉄溶接棒株式会社が行う体制

川鉄溶接棒株式会社の概要

- ・社長：石崎琢巳
- ・本社：東京都台東区蔵前 2-17-4 リバー蔵前ビル
- ・従業員数：46 名
- ・売上高：約 51 億円（2001 年度）

【神戸製鋼の溶接事業概要】

売上高：約 420 億円（2001 年度）

生産品目：被覆アーク溶接棒、マグ・ミグ溶接用ソリッドワイヤ、フラックス入りワイヤ、サブマージアーク溶接用ソリッドワイヤ・フラックス、溶接口ボット・システム 他

生産工場：茨木工場（大阪府） 西条工場（広島県） 福知山工場（京都府） 藤沢事業所（神奈川県）

従業員数：692 名

海外拠点：韓国、マレーシア、シンガポール、タイ、インドネシア、米国、オランダ

事業体制：研究開発から生産、販売に至る一貫体制

以上

<本件に関するお問合せ先>

川崎製鉄株式会社 総務部 広報室 Tel 03-3597-3161

株式会社神戸製鋼所 コミュニケーションセンター Tel 03-5739-6010